中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研き、具		おして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり	他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた,健全で個性		今年度の重点目標	1. 確かな学力の育成 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と生徒の進路実現		鳥取県立鳥取工業高等学校
27 /w-47 m 2	年 度 当 初 日暦(年度士の日指十次) 日暦(年度士の日指十次) 日本(日本) 日本(日					評価結果			
評価項目	評価の具体項目 ① 授業改善と 学力の定着	○授業評価アンケート 結果及び活用 ○基礎力診断テスト	生徒の授業満足度は概ね良好 ・学習状況や理解度を把握 ・授業改善に活用 ・基礎学力の定着に課題	目標(年度末の目指す姿) 【授業改善】 ・生徒の理解度、学習意欲を高めるための改善を 実施	【授業改善】 ①考査,模試,資格試験等の分析・活用 ②授業評価アンケートの活用 ③各種研修会への参加及び内容の伝達	1標達成のための方策 ・個人面談等の充実 ・公開・研究授業(年2回以上参加)の充実, 教材研究の充実 ・スキルアップ, 教職員の共通理解	経過·達成状況 【授業改善】 ①個人面談回数の増加。面談後,生徒状況を各分掌、教科で共有。 ②授業評価アンケート結果、研究授業等による改善内容を授業へ還元。 (英語による授業,言語活動の充実、ICT活用,体験的活動等)。 ③各種研修会等、参加先進校、教科指導研修等)。職員会議、教科会等で共有。	評価	【授業改善】 ①面談内容の充実(デーマの明確化等)。定期的な模試等分析(学年会、教科会)。 ②授業参観の充実、基礎学力向上対策教材、評価デスト等の検討と活用。 ③基礎学力向上対策(先進校(教材等)), 授業法(教科指導研修)等の検証と改革推進。 【基礎学力の育成】
確かな学 カの育成		結果及び課題 ○全国工業高校校長会 主催標準テスト結果 ○「5S」、「あさひ」の取組	・意欲喚起に課題・一部の科目で目標未達成・全体的には定着・授業開始・終了の挨拶や学習環境を改善	【基礎的学力の育成】 ・(工業科) 専門教育に対応できる基礎学力の育成 ・生徒個々の基礎学力の把握と指導の徹底 【学習環境の整備】 ・基本的な学習習慣の確立(「5S」・「あさひ」の徹底)	【基礎学力の育成】 ① (新)学力向上委員会による組織形成 ② (工業科) 基礎力診断テスト等の活用 ③ (工業科) 数学基礎演習 (1年生) の実施 ④進学補習、個別指導の充実 ⑤課題, 小テストの実施	・組織的な授業改善の促進	【基礎学力の育成】 (①学力向上委員会実施(1学期2回)。委員会意見授業規律の確立,自宅学習時間増,授業 改革)の検討(学年会、科会)。実施可能な項目から早期実践。 (②基礎力診断テスト(1,2年)の回数変更(年2回→年3回)。学習意欲の向上を喚起(1Week Trialの意義説明等)、標準テストの成績向上に課題。 (③数学基礎演習実施後、習得度の低い生徒へ補習。 (4)放課後補習実施(理数工学科全学年、3年工業学科希望者)。夏季補習実施(理数工学科	С	①検討結果係会・学年会の精査・再検討、具体的対策の計画的な実践・検証。 ②各教科・分学等での対応策(基礎学) 不足生徒への補習,生活改善指導等)の推進、基礎力診断テストを検証し、有効活用。 ③基礎学力不足生徒への補習等の推進。 ④内容の充実、生徒実態に応じた計画的な個別指導の推進。 ⑤誤題の量・質の検討化生徒の現状に対応)。 「学習環境の整備】
		○公開授業	・授業前の教材準備の徹底に課題 ・多くの教科で実施		【学習環境の整備】 ①教室美化の徹底 ②学習準備・着席・挟拶の徹底 ③提出物期限厳守の徹底		全学年)。その他適宜実施。 ⑤課題、小テストを計画的に推進。 【学習環境の整備】 ①ロッカー内、上の整備向上。 ②授業前の着席・挨拶は改善。教科書等の準備に課題。 ③改善傾向。		①机・ロンカー内の整理整頓指導徹底。ロッカー・教室通路等に物を置かせない指導 の徹底。 ②数科書等の準備の指導を徹底(年度当初のガイダンスを徹底、教員の早めの教室 待機)。 ③全クラスで提出物の指導を徹底。提出状況を関係職員で共有及び指導の徹底。
	② 主体的な学 習態度と実 践力の育成	○進路行事等の取組○生徒の学習状況	・新規事業の効果もあり、生徒の進路意識が向上 ・3者個人相談会(ハローワーク職員・生徒・保護者)、 1年生キリア塾を実施 ・学習時間は工業学科がやや増加、理数工学科がやや減少 (H23・H24年度自宅学習調査比較) ・一部の科で学習スペースを開放(学校での自主学習) ・目標設定が不充分	【学習意欲の喚起と自宅学習の習慣化支援】 ・各分掌・教科の諸活動を通して生徒の学習意欲 を喚起 ・進路・学習目標の確立を支援し、自宅学習の習慣 化を促進	【学習意欲の喚起と自宅学習の習慣化支援】 ①各種試験:適性検査・外部進路行事等 の活用 ②シラバスの活用 ③課題・ハテストの実施 ④自宅学習調査(年2回)の実施と分析	・個人面談等で利用 ・学習の全体像を提示 ・生徒の理解度を把握, 自宅学習の推進	【学習意欲の喚起と自宅学習の習慣化支援】 ①個人面談を実施(全職員・廃生初、夏休み明け)。適宜、担任・教科担任で面談・声かけ等を実施、生徒の進路目標の早期設定に課題。 ②シラバスを校内ネットワークにアップ。年度当初に全体像を提示。評価基準・方法を周知。 ③多くの教科が課題や小テストを実施。課題提出期限の厳守に課題。 ④自宅学習調査を実施(前後期)。概ね昨年度より学習時間が増加。	С	【学習意欲の喚起と自宅学習の習慣化支援】 ①面談の一層の推進。各種談弊等の受験奨励。キャリア教育計画の見直し。 ②提出物水授業態度等の評価を生徒に一層周知。不備な生徒の指導を徹底。 ③効果の検証及び課題内容・量や評価方法の検討。課題提出期限の厳守の指導を徹底。 ④個々の生徒の自宅学習調査結果の共有。自宅学習計画の指導。
		○朝読書	・定着 ・高い貸し出し冊数を維持						
	① 互いを尊重 する態度と社 会性の涵養	○人権・性教育LHR, 保育実習・シニア体験○ハイパーQU	・生徒は生命、人権尊重の大切さを思料 ・学年別研修会及び職員会議にて全職員に周知 ・クラスや生徒の課題を分析及び対策(クラスのルールづくり等)	・生徒の自己肯定感・自己受容感の向上 ・共に認め合い、互いの個性を尊重しあえる人間関係の構築 【人権教育の推進】 ・教職員研修を通した自己の振り返り ・教職員研修表通した自己の振り返り ・教職員間連携、関係機関との連携による問題	【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ①人権教育・性教育LHRの充実 ②性教育LHR ③ハイハーQU調査の分析・活用	 ・人権意識の高揚,他者の人権・存在を尊重する態度の育成 ・WYSH教育(1年生)の実践 ・生徒理解,クラスの目標の設定,集団規律の形成 	【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ①性に関する意識調査を実施(性教育講演会(7月)後)及び分析。いじめ問題に早期に対応 (特設LHRを実施(月))。生徒が相談しやすい環境の整備に課題。各教科でも人権教育を 推進、問題行動防止講演会を実施。 ②WYSH教育全国研修会(1年団中心)参加。性教育職員研修会(11月)を実施。全教職員で 理解深化。性教育LHRで実践(1年)。 ③ハイバーQU調査(1・2年2回)及び職員研修を実施。LHR・面談等に結果を活用。いじめ等 の対応に有効活用。 【人権教育の推進】 ①一人一研修の取り組みが不十分。 ②情報をもとに学年、人権教育部、保健相談部等を中心に速やかに対処。		【生命・人権尊重の態度と社会性の涵養】 ①各LHRの事前・事後研修会の時間確保と充実。各クラス・教科での取り組みを共有し、諸問題へ早期対応、いじめ防止基本方針の周知。保健委員会の活動を強化。女子生徒の個別指導を一層充実。 ②WYSH教育の推進。事後分析(効果と改善点の検証)。WYSH教育全国研修会へのおりば任意。
		○いじめアンケートの活用 ○人権教育校外研修	・問題の早期把握 ・全職員で取組む体制を強化 ・いじめ対策マニュアルの改善 ・取組みが向上		【人権教育の推進】 ①一人一研修の徹底 ②生徒情報の把握 ③専門機関との連携	・校外の人権教育研修への自発的参加の呼びかけ ・各学年・各分学の連携、密な情報交換			の参加(1年団)。 ③引き続き、クラスの指導に活用。 【人権教育の推進】 ①適宜情報を提供他校の公開LHRや講演会等)し、未実施者へ個別に声掛け。 ②現状把握をもとに、学校生活全般において人権啓発を実践。 ③連携強化の推進。
		「一人一研修」		【基本的生活習慣の確立】	【基本的生活習慣の確立】		③いじめ問題の早期解決のため、関係機関と連携。人権教育職員研修(10月) 【基本的生活習慣の確立】		
豊かな人 2 間性の 育成	② 健全な心身 と社会貢献 精神の育成	○ボランティア活動	・「5S」、「あさい」は概ね定着 ・締切數守(時間・提出物)の徹底、欠席・遅刻・早退等に課題 ・活発化(H24:テクノボランティアに25名参加等)	・自ら検拶ができる生徒の育成 【ボランティア活動の推進】	● 「5S」・「あさひ」の徹底 「ボランティア活動の推進	・日々の授業や学校行事を通して啓発	【基本的生品台頂の畑止】 ①学校生活金骸において指導を徹底、挨拶、遅刻は改善傾向。 【ボランディア活動の推進】 ②各種ボランディア活動、参加(テクノボランティア12名、砂丘ボランディア50名、とっとりサイエ		【基本的生活習慣の確立】 ① 粘り強く指導を継続。 【ボランティア活動の推進】 ① 各種テクノボランティアの参加を奨励。社会貢献の意義を啓発。
		〇部活動,生徒会活動	・大会結果をHPで紹介 ・生徒会活動が活発化(生徒会長等への立候補者数増加等) ・他者への思いやりについて考える場を提供	・社会の一員としての自覚 思いやりの心を育成 【部活動や生徒会活動の推進】	①テクノボランティア・家庭クラブ活動の推進 【部活動や生徒会活動の推進】 ①各クラス役員の活動の活性化	・参加の呼びかけ・ ・ 一・参加の呼びかけ・ ・ 一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ンスワールド46名、県社協主催ボランティア14名、児童福祉施設ボランティア4名等)。冬季テクバランティアは大雪のため未実施。 (部活動や生徒会活動の推進) (3)各種活動の施生・アップさわやか運動、万引き防止広報活動、中庭の花植え、校内美化、携帯・インタネットを考えるフォーラム等に生徒会、クラス委員が参加。 (環境改善) (環境改善) (3)学校生活全般において教育環境の整備を啓発。校内環境整備(花木の剪定と除草)へ保護者生徒が多数参加。 (3)ゴミの分別、プリントの裏面使用等が改善。古紙回収ボックス(生徒作成)をクラス設置。 (安全教育の推進) (1)全職員による朝の交通指導実施。交通安全教室実施(5月、1・2年)、実験・実習器具等の取り扱い指導の徹底。 (2)携帯電話マナー教室実施(5月、1年)。SNS等の取り扱い問題に対応中。校内での携帯電話の取り扱いに課題。	() () ()	【部活動や生徒会活動の推進】 ①活動の充実。より多くの生徒がかかわれる環境づくり。 【環境改善】 ①TEASの取り組みを継続実施。
		○安全教育	(生徒会主催募金活動等) ・自転車安全教室を開催し、交通安全について啓発活動を実施	環境改善】 ・環境改善の意識向上, 取り組み強化	【環境改善】 ①TEAS講演会, 環境LHR等の実施 ②ごみの分別, 節電・節水の取り組み強化			С	②指導の徹底、ゴミの廃棄場所の徹底と持ち帰り指導の強化。 【安全教育の推進】 ①安全教室等の時期を調整。 ②校内での携帯電話の取り扱いを検討。SNS等の取り扱い指導の徹底。携帯電話のマナー向上指導(日中)入学後東施。
				【安全教育の推進】	【安全教育の推進】 ①交通安全教室,薬物乱用防止教室の 開催 ②携帯電話マナーの向上				PLIBALTICATIONS
キャリア 教育の 充実と生 徒の進	・ 専門的な知識 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	○「工業技術基礎」 (共通実習)	 ・各専門科の特色を活かし、基礎的・基本的な内容を指導 ・レポート内容、提出・時間厳守、集合場所の確認等の指導の徹底に課題 	「工業技術基礎(共通実習)」の充実】 ・カリキュラムの充実 ・指導方法の充実・研究	【「工業技術基礎(共通実習)」の充実】 ①各小学科共通の指導内容のガイダンスを 充実及び事前指導時間を充分に確保		【「工業技術基礎(共通実習)」の充実】 ①事前指導時間を充分確保(昨年度比3倍)。時間厳守は改善。意義理解度は向上。 ②レポートの容が充実		【「工業技術基礎(共通実習)」の充実】①事前指導内容の標準化を徹底。実習内容の研究。単位数変更(4→3)に伴う内容の精選。
		○資格取得指導	・「国家資格・検定取得ガイドブック」に則り、適切な時期に案内 ・早朝・放課後補習や社会人議師による実技指導等を実施 ・昨年度、取得率は科によって様々 ・昨年度、3年生の一人一資格を実現できず ・上級資格取得の生徒は増加	【人材育成】 ・各工業分野の基礎的・基本的な知識と技能の養成 ・専門性の深化による資格社会に対応する能力	②レポート内容の充実 【人材育成】 ①資格取得指導補習の徹底	・言語活動の一環 ・早朝・放課後補習 ・生徒への早期受験案内の実施	【人材育成】 ①(工業) 計算技術検定合格126/148名(95.1%(昨年84.8%),若干上昇)。 危険物取扱者乙4合格11/90名(12.2%(31.3%),大幅下降)。 初級CAD検定合格14/37名(37.8%(39.5%),若干下降)等。 (その他)乗検、英検、教検等の資格試験を奨励、対策補習や模擬テストを実施。		②レポート作成の継続指導。 【人村育成】 ①資格・検定等の指導方法見直し(演習問題の増量)。生徒の興味・関心を引き出す 工夫授業に検定試験問題を取り込む等)を充実。 ②島工版テエアルンステムの早期(3月)案内。インターンシップ依頼企業の検討と連携強化。
路実現		O「5S」	・必要性を理解させることはできたが、実践力の育成に課題 ・校内環境の不備な点について迅速に対応、改善	の養成 ・勤労継・職業観等の価値観の形成支援 ・勤労継・職業的な自立支援 ・社会的・職業的な自立支援 ・ものづくり企業で期待される能力の養成 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	②体験活動の充実	・鳥工版デュアルシステム、企業見学、インターンシップ等実施 ・事前指導内容の充実と徹底 ・整理・整頓・清掃等を実習終了5分前に実施 ・企業見学、インターンシップ、鳥工版デュアルシステム、社会人 講師等の積極的活用	(企業19社, 短期大学1校, 4年制大1校, 建設現場7件, 施設見学2件, 昨年度同様) 鳥工版デニアルンステム。 (機械科2名, 電気科6名, 協力企業数4社, 昨年度比7名減, 1社減) インターンシップ事前打ち合わせが充実。 ③33(繁型・整頓 清報)は改善傾向。 ④実習・課題研究を中心に、「ものづくり」マインドの育成を推進。県高校生ものづくりコンテスト 優勝(電気工事部門、電子回路組立部門、来年度中国大会出場)。		③「5S」「あさひ」の継続指導。 ④高校生ものづくりコンテスト大会への早期選手勧誘及び活動の強化。
		○インターンシップ	・県東部の企業61社と連携 ・(H24)工業学科2年生151名が参加 ・協力企業数不足により、数社の企業が多数の生徒を受け入れ		③「5S」・「あさひ」の徹底 ④「ものづくり」に積極的にかかわろうとする 人材の確保				
		○鳥工版デュアルシステム	・(H24)参加生徒が機械科3名,制御・情報科6名,電気科6名, 協力企業数が5社 ・一昨年度比3名増・1社増						
		○企業見学	・(H24)企業16, 専門2校, 4大2校, 建設現場4件, 施設見学2件・一昨年度とほぼ同様の実施状況						
3		○ものづくり教育 ○企業との連携 ○資格・進学補習 ○進路指導の環境整備	・早期技術指導に向かう生徒の確保が難しく,技術・技能指導困難 ・昨年度、測量部門で中国大会出場 ・企業見学、インターンシップ等を実施 ・実施 ・求人票等の進路情報を迅速に入手できる環境の整備		【職業意識の育成】 ①各事業の推進				【職業意識の育成】 ①次年度も予定。来年度に向けて事前事後指導の内容を検討と一層の充実。 【進路指導の徹底】
		○面接指導	・校内外の面接指導を強化 ・多くの3年生の面接に臨む意識が向上 ・就職希望者の1次内定率が一昨年度比約10%上昇	【進路指導の徹底】 ・就職、進学に対する心構えの養成 ・学力向上 ・進路目標の早期設定	【進路指導の徹底】 ①補習・個人指導の充実 ②面接指導の充実	 ものづくり講演会、探検隊、先輩を囲む会などの有効活用 面接試験、就職試験、入試、資格取得対策 校内外の面接指導 	が向上。 【連路指導の徹底】 ①進学補習実施。ハローワークや進路支援企業と連携。個別指導(履歴書指導等)が充実。 内定率99%。	g	①未内定者や進学者への面接や補習を継続。 ②(1・2年)早期に進路目標を設定させるための計画。(3年)引き続き面接指導を徹底。具体的な指導内容の検討及び面接指導を通した生徒の育成を徹底。 ③学校生活全般において指導をなお一層徹底。
		○進路関連行事○挨拶,身だしなみ等	・昨年度、就職ガイゲンスに参加した生徒は20名から73名 と大幅に増加 ・昨年度、ものづくり講演会・探検隊、先輩を囲む会等を実施 ・適切な指導により改善	・連路日標の早期設定 ・進路目標の実現のための取り組みの推進	③基本的生活習慣の確立	個人面談実施等により、具体的進路目標の早期設定日常的な挨拶、言葉遣い、身だしなみの指導積極的参加の啓発	 ②1:2年で連絡目標設定のための面接指導の強化が必要。試験対策のための面接指導を 徹底成職希望者:異なる教員による10回の面接、ハローワーク主催面接会等。 ③基本的生活習慣の指導を強化。生徒状況は改善中。なお一層徹底が必要。 ④進路ガイゲンス(8月、3年、ハローワーク)を実施(原格が多く参加人数が激減、欠席生徒への指導を後り実施、機擬面接会(9月、3年、2時を接後全業)を実施、機擬面接会(9月、3年、 	D	①来年度の実施日時や指導方法の検討、指導の徹底。
	助域や産業界との連携強化	○疾疹、牙にしなみ寺	*適9//4/田学により以音 ・インターンシップ、鳥工版デュアルシステム、社会人講師事業等	【人材育成】	【人材育成】		少11年をで取り失肥。保険間依云(3月,3年,距射又接止来)を失肥。保険間依云(3月,3年, ハローワーク) 【人材育成】		【人材育成】
		○産業界との連携 ○情報発信	を実施し,連携強化 ・HPの適切な更新の徹底等,活発化	・企業が求める人材や地域の担い手の育成	①各事業の推進	・企業見学、インターンシップ、鳥工版デュアルシステム、社会人 講師事業等の実施 ・産業界との連携強化	「①各事業の効果大。企業との連携を強化。 【情報発信】 ①津ノ井地域へPTAだより配布。学校HPの充実。とっとり産業フェスティバルやマスコミへ情		①実年度も各事業を実施予定。事前事後指導の内容を検討、企業との連携強化。 【情報発信】 ①出前授業の検討と実施。地域や中学生等によりわかりやすく情報を発信。HPの迅
		○地域との連携	・中学校体験入学での参加者が増加・「高校生マナーアップさわやか運動」や「桜ヶ丘グリーンゾーン」での清掃活動実施	【情報発信】 ・地域や小学校・中学校等への積極的な情報発信 【地域との連携】	【情報発信】 ①鳥工のPR強化 【地域との連携】	・HP内容の充実 ・出前授業, 科学広場等の実施	報提供。科の内容を中学生へアピール(中学生体験入学や鳥工TEC等)。学校情報サイト「まちCOMIメール」が浸透。 【地域との連携】 ①各行事を通して、地域との連携が強化。	В	速な更新。 【地域との連携】 ①地域の行事への積極的な参加を啓発。来年度も実施予定。 【PTA活動の推進】
		○科別PTA	・「津ノ井地域文化祭」、「鳥取県技能祭」が特に好評・ ・例年通り多くの保護者参加・本校における教育活動・の保護者の理解が得られるよい機会	・各種事業を通じて地域と連携した貢献活動の実施 【PTA活動の推進】 ・本校の教育活動への理解の深化	①各行事への参加 【PTA活動の推進】 ①科別PTA等の公開学校行事による保護	 「高校生マナーアップさわやか運動」や「テクノボランティア」, 「津ノ井地域文化祭」,「技能祭」等 	[PTA活動の推進] (日本語 の では、 1975年 では、 19		①より参加者数を増やすため、各PTA活動の内容を検討、連携強化
				・生徒指導・支援の充実	者や地域との連携強化 掃・清潔・躾 あさひ: 挨拶・作法・人の話を聞		注)WYSH教育とは、Wellbeing of Youth in Social Happinessの頭文字をとったもので、人間基礎語		## ## A T T T T T T T T T T T T T T T T